



# ニホンミツバチの生態～天気と巣箱からの出入りの関係

○菅原美翔<sup>1</sup>, 杉本初陽<sup>2</sup>,  
(<sup>1</sup>秋田県立金足農業高等学校食品流通科1年, <sup>2</sup>同校生物資源科1年)

## はじめに

ニホンミツバチ (*Apis cerana japonica*) は、日本の固有ミツバチで、病害虫や夏の暑さ、冬の寒さにも強く、とても優しくおとなしい性格である。そのため雪国秋田での飼育や、養蜂を始めて行く私たちに最適だと考えた。さらに、味や風味がとてもよく、希少価値の高いニホンミツバチのハチミツをたくさんの人に味わってもらいたいと考えこのプロジェクトが始まった。今回は、天気とミツバチの巣箱からの出入りの関係について研究した。



図1. *Apis cerana japonica*

## 調査方法

調査項目: 気温・湿度・照度・風速・巣箱からの出入りの回数  
留意事項 記録する際、ミツバチたちの妨げにならないよう巣箱の横に立ち観察。

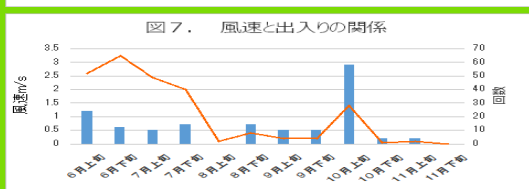
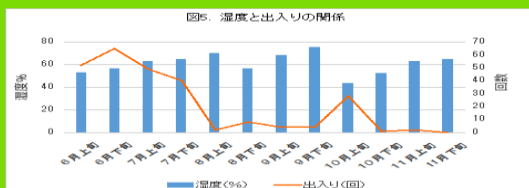
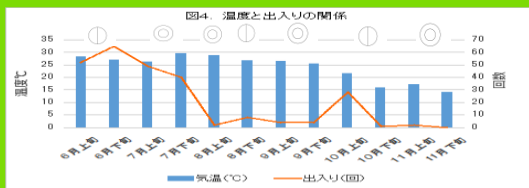


図2. マルチ環境測定器



図3. 本校の重箱式巣箱

## 〈ミツバチの出入りと調査項目〉



## 結果および考察

- ・図5～図7の、湿度・照度・風速はこのグラフから見るとミツバチの巣箱からの出入りとは関係がないと考えられる。
- ・気温のグラフは気温が高いほどミツバチの出入りが多く、降雨のない気温25.0度以上の日に活発だった。
- ・8月上旬頃からは女王蜂の世代交代に失敗してしまった群れやスムシ(ハチノスツヅリガ)の被害、蜜源となる花の減少もあり、25.0度以上あっても出入りが少なくなったものと考えられる。
- ・6～9月には16時を過ぎても出入りがあり、巣がとても成長し、採蜜することができた。
- ・4～5月、10～11月は16時を過ぎるとほとんど動きがなく、また11月に入り寒くなるとおとなしいニホンミツバチも少々攻撃的になった。

表1. 時間と巣箱からの出入り

日時	気温(°C)	出入回数(回/分)
6/24(13:15)	28.7	76
6/24(17:05)	25.2	55
10/6(12:43)	20.4	68
10/21(16:14)	15.2	2

## まとめ・今後の課題

- ・ニホンミツバチの行動は季節によって異なり、気温が関係していることが分かった。
- ・女王蜂の世代交代がうまくいかなかったり、スムシやスズメバチ等の被害に苦戦することも多々あった。
- ・今後は分蜂をうまくキャッチし、失敗を生かしてスムシやスズメバチの被害を抑えたい。

最後になりますが、財団法人斎藤憲三・山崎貞一顕彰会、鳥海ニホンミツバチの会、奥羽養蜂園の方々から多大な情報提供や研究助成をしていただきました。心から感謝申し上げます。

参考文献: 吉田忠晴.2000.ニホンミツバチの飼育法と生態.玉川大学出版部  
藤原誠太.2010.誰でも飼える日本ミツバチ.一般社団法人農山漁村文化協会  
小野寛太.2013.春望.農業クラブ機関誌